

梶谷提案を拝聴して

福井大学 橋本康弘

梶谷提案を拝聴して：ポイント

- オーセンティックな社会科を作りたい

→ 「経済」：生徒（大人）にとって身近で切実な問題に発展する。

→ 「経済」の視点で社会の問題を解決する資質・能力：将来にわたって、大人になった生徒にとっても有益な能力

→ 「経済」を視点にして、意思決定型の授業を創ることが、オーセンティックな社会科になる：梶谷先生の仮説

梶谷提案を拝聴して：ポイント2

- 梶谷先生のオーセンティックな社会科は分野横断型

→地理や歴史、公民といった「セパレート」型の学力よりは、むしろ、歴史や地理で「経済」を学ぶ。

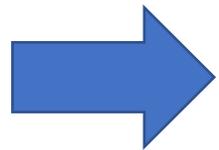
→「経済の意思決定能力」を公民だけではなく、地理や歴史で繰り返し取り扱うことで、将来にわたって、大人になった生徒に有益な資質・能力を育成することが可能になる。

梶谷提案を拝聴して：ポイント3

- 「経済の意思決定能力」：経済の見方・考え方を活用することで、意思決定能力を育成できる。

→ 経済の見方・考え方の定着を重視している学習観

→ パフォーマンス課題を駆使した生徒の「やる気」を意識している



梶谷提案は、「経済」を視点にした、社会科（地理・歴史・公民）の授業改革、カリキュラム改革のご提案になっている。

次の学習指導要領はどう改定されるだろうか？（橋本私見）

- 「探究」が一層重視される。
→ 「習得」「活用」「探究」といった学力観から、「探究」の学力観に変化する（高校の場合を後のスライドで例示します）。
- 「探究」の授業を創っていく上で、必要になる授業観（PDCA型授業づくり）を一層重視される。

平成29年・30年版学習指導要領のポイント

1. 「習得・活用・探究」型学力（平成20年版）から「探究」型学力の育成

→多くの科目を「探究」科目として位置づけた。

→平成20年版は、「知識」を確実に「習得」させ、それらを使って課題を解決することで思考力・判断力・表現力を育成することを重視した（学校教育法30条2項）。他方で、平成30年版は、平成20年版の思考力・判断力・表現力の育成の方向性に加え、「探究」を全面に打ち出し、「探究を進める中で、「知識」の「習得」や「活用」を行う中で、思考力・判断力・表現力の育成を図ろうとした。

平成20年版の「政治・経済」の全体構造について

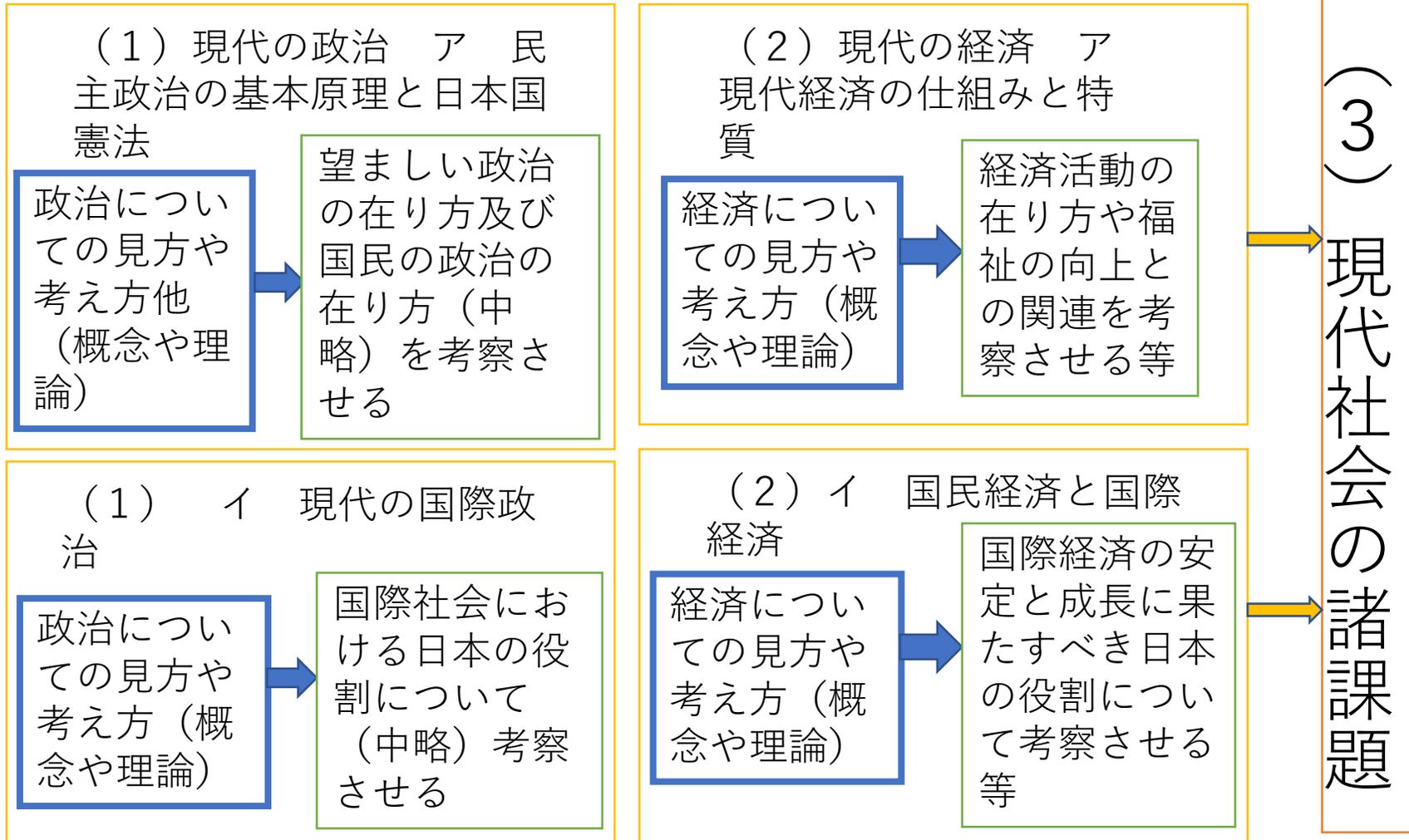
習得

活用

習得

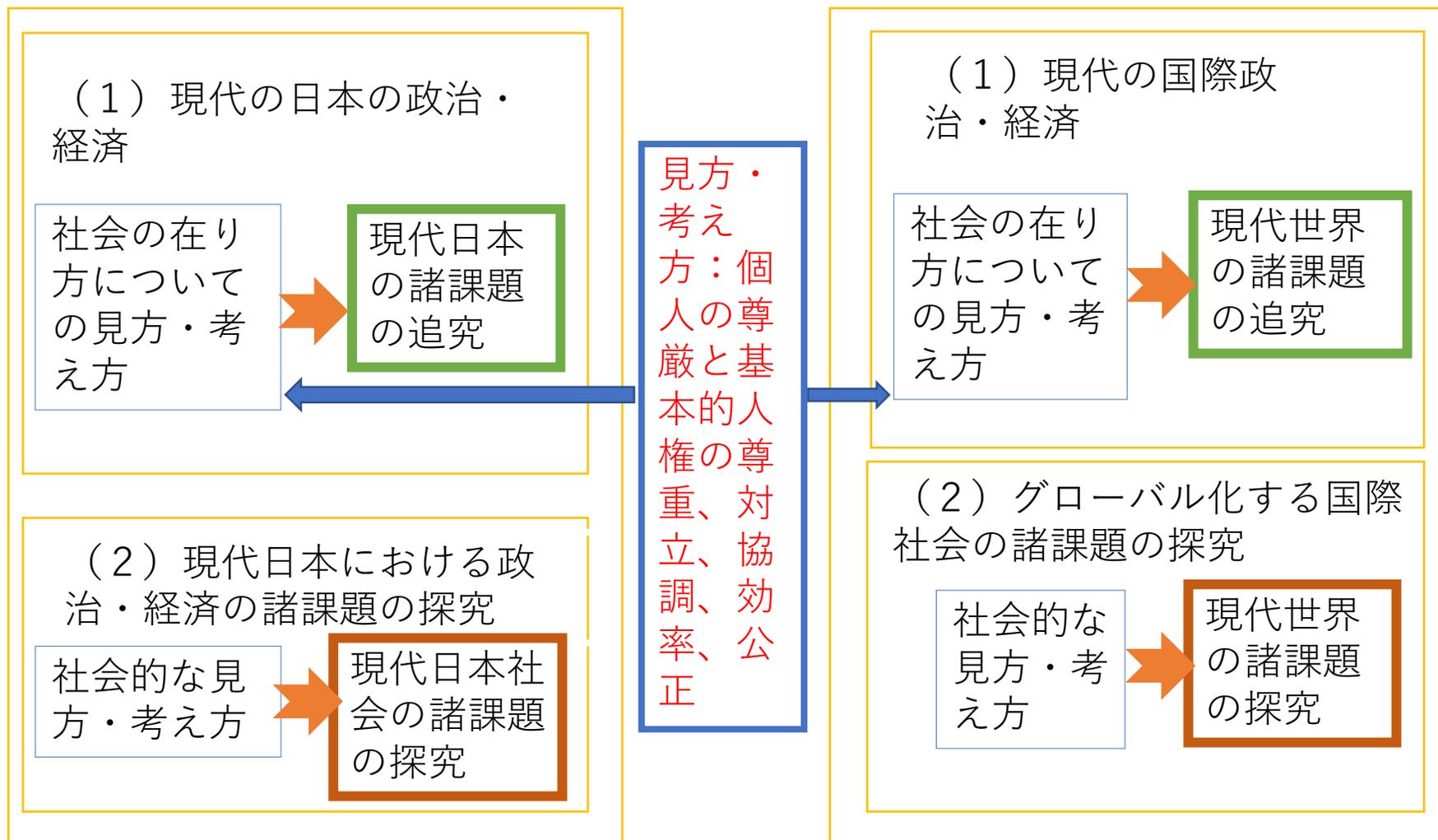
活用

探究



探究

探究



A 現代日本における政治・経済の諸課題

B グローバル化する国際社会の諸課題

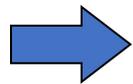
平成20年版で重視されていた知識の「活用」事例：教育課程実施状況調査から

「ある総菜屋さんに行列ができています」。

行列はときに意図的に作り出されることがある。

「人を並ばせることが販売戦略」ということをお店の人が教えてくれた。限られた個数しか作らず、限定販売を強調する。

Q この行列について経済的にはどのように説明できますか。供給という言葉を使って説明しなさい。



知識・概念を用いた活用：「供給を制限したため行列ができた」

「探究」とはどのような学習過程か？：中教審・荒瀬会長の言葉

- 「単元内自由進度学習」が注目されている。単元のなかでどういう学び方をするのか、子供自身に任せるものだ。これは、**複数の教科で行うことで、どの教科をどのような順番や比重で学ぶかについても含めて、自分で進める**ことができる。
- **最終段階は個人研究**である。自分でテーマを設定して取り組み、論文に仕上げる。1人で進めることで、取組がすべて俯瞰でき、失敗も含めて学びにつながると考えた。
- 2016年の中教審答申は「**探究**」について、**気付きから疑問を形成するなど、問いを立てることを重視した**うえで、**評価は、成果よりも過程を重視することだと指摘**している。

探究の学習過程とは？（「公共」の場合）

①課題の設定

生徒自ら課題を設定する

②情報の収集と読み取り

情報を複数の資料から適切に選択し、社会的な見方・考え方を総合的に働かせて読み取り・分析する

③課題の探究

情報の読み取り・分析を基に、課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想する。その際、社会的な見方・考え方等を活用しながら、多面的・多角的に考察、構想する

④自分の考えの説明，論述：構想したことの妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，論拠を基に自分の考えを説明，論述する

「探究」の学習活動がなぜ重視されるのか？

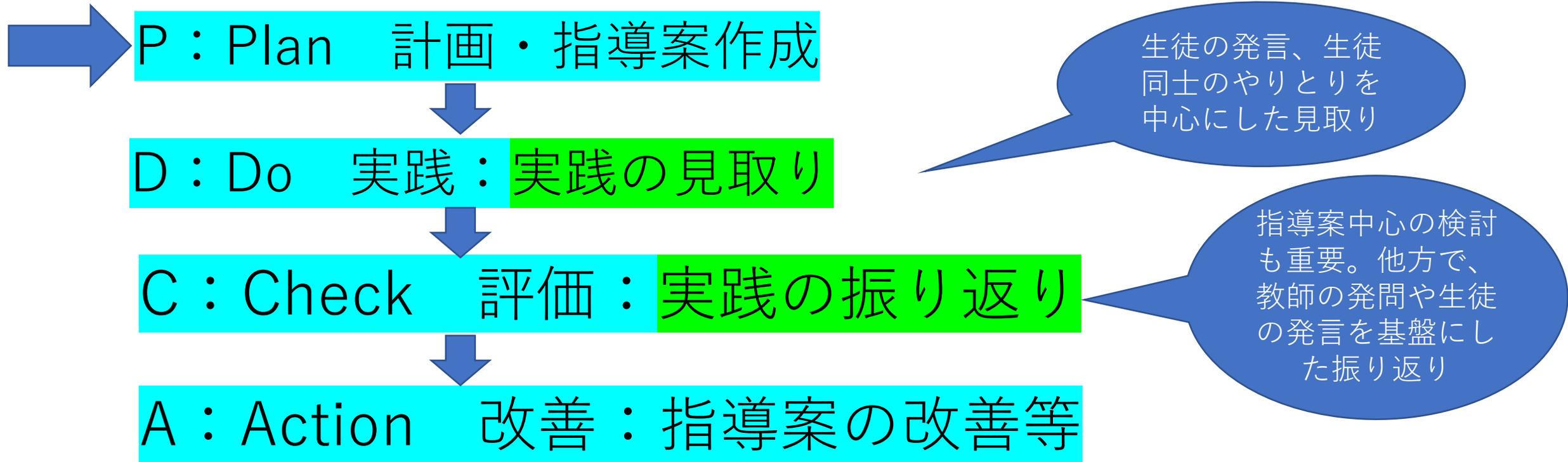
- **非認知能力の育成**：知能検査や学力検査では測定できない能力を意味しています。具体的には、やる気、忍耐力、協調性、自制心など、人の心や社会性に関する力です。
 - 「グループ探究」の場合、グループのリーダーは、グループのメンバーと「協調」しながら、意見をまとめていく、といった役割を担う。
 - リーダーは、グループのメンバーの特性（発言することが苦手とか、突然話をし始める等）を見極める必要がある（「協調性」）。
 - 学力の三要素「学びに向かう力」は、非認知能力の側面がある。そして、その能力は、教科に限定されない。

小括

- 梶谷実践は文科省的な「探究」なのか？
- 梶谷実践は非認知能力を育成できるのか？

「探究」が重視されるとPDCA型授業構成が必要になる？

「探究」は、実践の振り返りが重要になる。その時々生徒への声かけ、支援の在り方の成否が一層問われることになる。



福井県での「主権者教育」の実践例

主題：福井県は移民（外国人労働者）の受け入れをさらに拡大すべきである

Q:生徒には賛成か反対かを問う

資料A：日系企業の推移

資料B：移民300万人受け入れで経済効果20兆円の試算

資料C：外国人を雇用する上での阻害要因

資料D：移民の日本語能力について

資料E：「外国人労働者の教育に関する実態調査」について
(一人で業務を任せると至っていない)

福井県での「主権者教育」の実践例（2）

主題：福井県は移民（外国人労働者）の受け入れをさらに拡大すべきである

資料F：Clip Line アンケート調査「外国人労働者の教育に関する実態調査（離職期間）」

資料G：訪日外国人数・出国日本人数データ

資料H：福井県の外国人労働者の現状
（製造業や技能実習生が多い）

資料I：外国人移民に必要な日本語指導の現状について
（日本語指導がままならない）他

福井県での「主権者教育」の実践の結果 (生徒の意見の傾向)

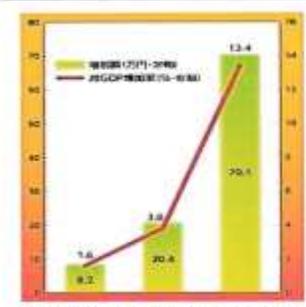
- 賛成と反対の意見が分かれた。
- 賛成の意見：「人手不足の解消」「経済活性化」：**スローガンのような意見で形成**
- 反対の意見：「言語指導が大変」「生活が辛い」「コミュニケーションが困難」：**日常知で意見が形成**



福井県での「主権者教育」の実践の結果

生徒はわかりやすい、
生徒の日常知レベル
で理解できる内容に依
拠しやすい

【資料B. 移民300万人受け入れで経済効果20兆円の試算】



外国人労働者受け入れによる GDP 上昇効果(試算) (出典: 慶應大学 後藤純一教授/菅川平和財団)

「本来移民とはその国に必要な人材を選択的に受け入れるもの。カナダ、オーストラリアでは正規に受け入れた移民の犯罪を心配する声は全くありません。実際、カナダなどが州毎に異なる移民政策を持つのはそれぞれ欲しい人材が異なるため。現在、秋田県は農業後継者が 20%しかいないことが問題になっていますが、農業に適性のある移民だけを徐々に受け入れるなどすれば一般的にイメージされる混乱が生じることはない。慶應大学の後藤純一教授の試算では、移民の経済効果は 300 万人の移民を受け入れた場合で 20 兆円に上るともいいます。世界的有名企業の創始者は皆移民 1 世、2 世であることが示唆するように、異なるバックグラウンドの人材を受け入れること自体が社会にとって飛躍のチャンスです」

(ハーバードビジネス・オンライン「移民ビジネスの経済効果は 20 兆円? 専門家に聞いた」, 2016.08.16)

これらの資料から何が読み取れるだろう？

移民の経済効果は300万人を受け入れた場合で20兆円になると試算される。
⇒移民を受け入れると_____がある。

福井県での「主権者教育」の実践の結果 (生徒の意見の傾向) (3)

賛成意見に対する「反論」

- 人出不足の解消があるが、外国人の教育、住環境問題はおきざりなのか

反対意見に対する「反論」

- コミュニケーションが苦手だけど、日本で働こうとする意識が高い外国人が多い
- 日本の高い技術を得ることが母国に戻っても意義が高い

 「主権者教育」を行ったことのない学校の場合、意図的な「反論」の機会を入れていく必要がある（生徒の「想像力」を補う）。他方で、自分の意見を変更しない「頑な」生徒もいる。

小括

- 梶谷実践の授業は実際にどのように進められ、生徒はどう授業を受け止めているのか？
- 梶谷実践における「生徒同士のやりとり」はどうか？
- 梶谷実践（カリキュラム）は実践後、どう「改善」しているのか？